

令和4年度 第2回沼津市立図書館協議会 議事録

日 時 令和5年3月24日(金) 午前10時30分 から 午前11時20分

場 所 沼津市立図書館4階 第1・2講座室

出席者 委 員 7名

村上会長、渡邊(美)副会長、庄司委員、露木委員、佐野委員、小島委員、
工藤委員

(欠席：渡辺(洋)委員、宮代委員)

事務局 6名

尾和館長、中澤事務長、中川事務長補佐、山下管理・事業係長、榊図書係長、
凌主事

傍聴者 1名

1 開 会

配付資料に基づき、図書館協議会の設置根拠、役割等について説明

2 会長挨拶

村上会長： おはようございます。協議会は原則年2回ということで、前回から時間が空いておりますが、その間にご承知おきの通り、昨年11月に静岡県図書館大会がありました。私も初めて参加させていただきましたが、非常に充実した内容でした。全体会の講演では、図書館の改革に直接関わった長野県塩尻市の図書館長のお話を伺いました。後半は分科会に参加しましたが、私のように図書館に直接携わっていない人間向けの分科会も用意されていて、非常に面白い、聞きごたえのある分科会でした。また来年度も開催されると思いますのでお時間ある方はぜひ出席していただきたいと思います。それだけの価値がある大会でしたので、簡単にご報告させていただきます。

それから私事になりますが、昨年の6月に、71歳して初孫が生まれ、今9ヶ月になりました。離れた場所に住んでいるため時々しか顔を合わせませんが、今年の1月に会った時にはハイハイが始まったかなというぐらいでしたが、先週会った時には伝い歩きができるようになっていました。それでびっくりしたのが、自分で動き回れない時には絵本を見せる等していましたが、自分である程度動き回れるようになったことで、スマホを手に取り画面を広げたりしていました。当然まだ文字は読めず、言葉も基本的な言葉しか聞き取れませんが、生後1年も経っていないのに私より進んでいるのではないかと思います。そういう意味では、これから例えばブックスタート等、図書館と本のあり方というのも、我々の頃とは相当違ってくるのだと思います。図書館大会で塩尻市の図書館長もおっしゃっていましたが、新しい図書館として、場所とお金があればという話になりますけれども、将来的にはそういったことを意識した図書館作りも必要になってくるのではないかと思います。そのようなことも含め、本日も様々なご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

3 議事（進行は村上会長）

(1) 令和5年度資料整備予算について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： 電子書籍の購入ですが、多分毎年説明があるかと思いますが、「電子書籍コンテンツ」と「電子書籍雑誌コンテンツ」がどういうものが具体的に教えていただけますか。

事務局： 「電子書籍コンテンツ」は一冊一冊の本のことで、「電子書籍雑誌コンテンツ」は、色々な雑誌を電子図書館の中で閲覧ができるサービスになっております。約100タイトルの電子雑誌が揃えてあります。

村上会長： 「購入の方法等」に「電子書籍の利便性を生かせるよう、料理、健康、子育て、ビジネス等の実用書や、旅先等でモバイル利用ができるよう旅行ガイドブック等の充実を図る。」と書いてありますが、これは旅先で分厚いガイドブックを持っていかなくてもネットからすぐ見ることができるということですよ。すごく便利になったと感じます。

(2) 令和5年度自主事業計画について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： 何点か質問をさせていただきます。まず、沼津市制100周年を迎えるにあたって、色々な形で図書館の方々がご努力いただいて、それにマッチした企画展を行うことは、非常に素晴らしいことだと思います。例えば企画展「沼津の学校と教科書のあゆみ」ですが、廃校になった方々に母校を思い起こしていただくために、当時の校歌を掲示すると、その学校に思いのある方が見に行こうと思うのではないのでしょうか。よろしくご検討をお願いいたします。

第二に、市制100周年とあわせまして、市役所の脇に香陵アリーナという名前で新体育館、総合体育館ができ、また中央公園が、今の形でいいかどうかを検討しています。沼津市のホームページを見ると、駅から総合体育館へ歩く過程で、沼津のことを知ってもらえるよう回遊性を高めようとする試みがされていますが、その試みに図書館も乗ったらどうでしょうか。総合体育館に行く人や中央公園を散策する人を、図書館でうまくキャッチできるような試みをしていただくと、市制100周年の方針にあった試みができるのではないかと思います。ぜひともご検討いただきたいと思います。

それから企画展は千差万別で色々な形のものであって素晴らしいと思いますが、例えばその中の一つとして、市立図書館開館30周年にあわせ、図書館の歩みを写真か何かで展示していただくのはどうでしょうか。沼津市立図書館は、元々沼津文庫から発祥し、そこから駿河図書館になって今のこの図書館に繋がっているという経緯がありますので、例えばそれぞれの建物の写真や、当時の来館者数がどれくらいで今はそれがどのくらい増えたなど、もしくはこの図書館はなくなったけれども新たにコミュニティーセンターの中に図書館を作ったなど各地域の図書館との関係。そのような形で、この場所の図書館だけではなく、沼津市全体に対して図書館がどのような形で市民サービスをしてきたかを、もう一度皆様に知っていただくのはやはり大きなポイントになるのではないかと、市制100周年と合わせて、そんな気持ちがいたしております。企画がたくさんある中大変だと思いますが、もしよろしければ具体的にご検討いただければと思います。これは決してしてくだ

さいというのではなく、ご検討お願いしますという意見です。以上です。

村上会長： ただいま三点ご意見ご要望が出ました。一点目の新体育館や中央公園との回遊性については、すぐできるという話ではありませんので、これは長期的に検討していただき、次回に結果を報告していただければいいかと思います。後の二点については、市制100周年に絡んでおりますので、実施まであまり時間はありませんが、そのあたりも含めて事務局から現状や方針を教えてください。

事務局： まず一点目の企画展「沼津の学校と教科書のあゆみ」ですが、各校の校歌を展示する予定であります。来館された際に、ここの学校の校歌はこう歌ったよねという風に懐かしんでいただき、思いをはせていただければと思います。そして「沼津市制施行100周年企画展」ですが、大正時代から現在までということで、新体育館のこれからの展望ということも、市役所の資料を使い、未来へという形で展示に入れていく検討をしております。「市立図書館会館30周年記念企画展」につきましては、展示ケースを一つ使用し、沼津文庫の時代から現在まで、そしてネットワークが繋がった地区センター図書室について、写真を含めてご紹介する予定です。

4 報告事項

・令和5年度 小学生への市立図書館利用者カードの発行について 事務局から配付資料に基づき説明

委員： 令和4年度に新たに255名の児童が利用者カード発行することができたというのはとてもよかったと思いますが、人数割合的には少ないですよ。利用者カードを登録する際に児童の住所等個人情報を登録する必要がありますが、教員が登録することはできないため、家庭でお願いしています。学校で登録できればいいのですが、親の承諾なしに進めるのはどうなのかということで、保護者に連絡し、家庭で登録をお願いしています。小学校新1年生についても、住所を本人が登録することができないため、家庭でやることになりましたが、こちら（学校）の方でもう一度お願いして啓発するとよいのかなと思います。

事務局： 小学校5・6年生は、子ども自身が自分の意思で登録できる年齢だと考え、ご本人に対して依頼しました。新1年生につきましては、ご本人での登録は難しいと思いますので、保護者の方に登録をお願いする予定です。

令和4年度の小学校の利用者カード取得率は高く、約5割に上りました。そのうち5・6年生に関しては、人数の取り方もありますが、約6割～7割程度になりました。令和5年度の新1年生につきましては、住所等の入力がございますので、今回は保護者の方に声掛けを予定しております。

委員： 最初に会長さんから図書館大会のご紹介がありましたが、その1ヶ月程前の10月21日に読書アドバイザーフォーラムがありました。各市町から読書アドバイザー、図書館員、司書、市の担当者が参加したフォーラムなのですが、残念ながら沼津市からは図書館員さんがいらっしゃいませんでした。フォーラムでは、講座や講演、市の図書館の状況等お話があり、午後はグループワークで、各地域の図書館や学校図書の問題点や力を入れている

ところ、工夫しているところの話し合いが行われました。グループワークでは、沼津市にも有効になるような話がたくさんあったので、出来れば来年度は読書アドバイザーフォーラムに沼津市立図書館さんも参加していただきたいと思います。沼津市の読書アドバイザーの人数は増えてきていますので、読書アドバイザーと図書館員が話し合いを持つ機会があれば、子どもたちに対する読書活動や図書館活動に有効な形がとれると思いますので、そういう工夫をしていただきたく発言いたしました。

事務局：今年度は参加できず申し訳ありませんでした。日程等調整し、検討したいと思います。話し合いにつきましても、最初は大きな形ではできないかもしれませんが、できることから考えたいと思います。ありがとうございます。

委員：毎年同じような話があるかと思いますが、もう一度確認をさせてください。まず一点目は図書館の費用が限られている中で、寄贈したいという市民も多いと思いますが、色々な制約があり、全て受け入れることができないと思います。その状況について、ご説明をいただきたいと思います。

二点目は、図書館は子どもに向けてだけでなく、大人に向けても色々な形でやってかなければならないと思いますが、その中で、劣化しやすい資料の保存について、どのような形で取り組んでいらっしゃるかをご説明願いたいと思います。例えばこの図書館にフィルムデータがある場合、そしてそれをマイクロフィルムのようなもので保管している場合、フィルムの劣化が激しいかと思います。そのような劣化しやすい資料の保管状況をご説明願えませんでしょうか。

事務局：まず一点目の寄贈についてですが、ありがたいことによくお話をいただいております。ただ、図書館の方も蔵書ができる容量がございますので、今現在書架にある本かどうか、また沼津の郷土に関係している、これから皆さんに有効に活用されている本かどうかを選書会議等で検討させていただいた上でご寄贈をいただいております。そのため、ご自宅の使わない資料をすべて受け入れるということではできない状況でございます。また、劣化しやすい資料の保存ですが、フィルム等は以前の協議会でもお話があったでしょうか。現状は普通に置いた状態で保存しておりますが、貴重な紙の資料につきましては、温度管理をしている部屋の中で保存しております。

村上会長：3月3日に「大人のビブリオバトル」を行ったそうですが、これが一体どういうイベントか、開催したばかりであまり細かいところまでまとまっていないとは思いますが、成果をご報告いただけたらと思います。

事務局：今回の「大人のビブリオバトル」は、発表者が5人で観戦者が40人、計45人で行いました。子ども対象のビブリオバトルはご存知かと思いますが、これの大人版ということで、出場者を18歳以上に限定しております。今回で3回目の大会でしたが、前回まではコロナによりオンラインで開催したため、今回初めて対面で開催しました。参加者からは大変好評で、本のレビューを生で聞けて本に興味を持った、色々な本を知ることができた、発表者のレベルが高かったなどの高評価を受けております。

ルールは、発表者が自分の推す本について、5分間スピーチをし、会場におられる方が、3分間の質問タイムで質問し、最終的に5人の発表が終わった後で、発表者と会場におられる方が投票をし、得票が一番多かった本がチャンプ本、チャンピオンになるというような書評ゲームとなっております。

村上会長： ありがとうございます。このイベントを行ったことによる成果を教えてください。

事務局： 自分だとどうしても同じようなジャンルの本を選びがちになるかと思いますが、発表者が推す、皆さんに読んでほしい本を発表することで、参加者の方が全く新しい本を発見できることがメリットだと思います。それから本に対する興味の広がりも一つの目的になっていると考えております。例えば今年度小中学生のビブリオバトルで、中学生の部でチャンプ本を獲得した方が市から全国大会にご参加いただき、その方にこの間お会いする機会があったのですが、本をより一層読むようになり、二週間に1回20冊程度読むようになったということでした。参加された方の広がりもそうですが、1冊の本を深く読むきっかけになっているのではないかと思います。ビブリオバトルは今大会という形になっていますが、例えば書店でも授業でも取り入れていただいております、様々な場面で気軽にそういう取り組みができれば、読書が広がっていくのではないかと考えております。

委員： ビブリオバトルについて質問させてください。ビブリオバトルで紹介されている本はおそらく文学書のような本かと思いますが、どのような分野が紹介されているのか、例えば理工系みたいな分野が紹介されているのか、そこら辺の状況を教えてくださいませんか。

事務局： その年度によって紹介される本は変わってきますが、今年度についてはまず日本の小説が2冊あり、『優しい死神の飼い方』と『かがみの孤城』という本で、タイトルを耳にしたことがあるかなという人気本でした。それから珍しかったのが韓国の方の著作で『千歳の青』という本がございました。また、高校生の方が紹介した、実用書になるのでしょうか『平常心のコツ』という本は、小説とは違うジャンルでした。もう一つ、今流行りのお金に関する本の紹介もあり、『本当の自由を手に入れるお金の大学』という本でした。以上5冊、幅広い分野の本が紹介されましたが、今回、理工系の本はございませんでした。

補足ですが、今ご紹介させていただいた5冊は大人のビブリオバトルですが、小中学生のビブリオバトルは参加者が多いこともありジャンルが広く、ミステリーや理工系の本もございます。例えば今ここでは本の名前はわかりませんが、カラスの生態の話、なぜカラスが嫌われるのかという視点からご紹介いただいた子どもさんいらっしゃいましたので、ジャンルはその方の興味があれば何でもよく、制約をしないでやっております。

・エレベーター改修工事について

令和5年度にエレベーター改修工事を実施することを説明した。

・協議会委員の辞任について

庄司委員が定年退職により協議会委員の職を辞することを報告した。

5 閉会